第 2013-15 号

恵みと真理のニュース

2013 年 6 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 舅姑を救ってくださり従順し忠誠する恵みをくださり感謝します。

天の父に頼り手を上げます。私を哀れんでください。私の罪のため血をながされたことにすぐ悔い改めながら主の前に来ます。アメン　イエス様を知らなく信じなかった私の夫の家で初めて恵みと感動の中で捧げた賛美です。
舅姑は　一生子供たちが健康で育つことだけ願い農業しながら生きて来ました。ある日、舅が消化ができなく胃が痛くって検診を受けましたが初期胃癌でした。病院で入院退院を繰り返しながら闘病生活が終わり、癌が完治されました。しかし、田舎で療養しながら無理をして今回は脳卒中で倒れました。話しができなくなり、体の右の方が麻痺されどんどん弱くなっていく舅を見るとあまりにも哀れんで心が痛かったです。
　舅はまた長い闘病生活をしました。癌闘病する時は話しができ自ら動くのができトイレに行くこともできましたが、しかし、今は一日ベットで横になっている舅の面倒みるのは嫁として大変なときが多かったです。舅は私に助けを受けることをこころよく思わないでたびたび怒って姑を探しました。長い時間を病院にいらしても　差度もありませんでした。苦労している姑を思って舅を療養院に仕えとしていたが,あえて家で面倒を見てくださるというふうに　姑の意を受けて思いとおりにしました。
舅の病気は悪化し横になって生活するのも7年目になりました。“神様、　舅姑が心を開いてイエス様を受け入れるように導いてください、看病する姑が倒れないように力を与えてください”私が二人のため神様に祈りをすることしかなかったです。
2012年2月25日土曜日に姑は私の家族みんな田舎に来て一日泊まってほしいと連絡がきました。田舎に到着してみたら舅はもう気力がなくて姑も痩せていました。よく家に来なかったことに後悔になり本当に申し訳なかったです。舅がとても鎮痛して夜通し寝なくて旦那と姑は看病をしました。次の日、主日になって家に帰ろうと準備をしながら姑と深く心で魂の救いに対して話しをしました。今まで福音を断った姑の心を開いて牧師の訪問を受けると言われました。喜び心でいっぱいでした。“聖霊様が助けてくださることだ。”と確信だと思いました。旦那も喜びました。
夫の家を行く時に礼拝を捧げた教会の牧師にお願いしました。牧師の導きで家族がみんな集まって賛美とイエス様を心から受ける祈りと信仰告白、約式洗礼まで恵まれる感動の時間でした。姑はよく分からないと否定しましたが礼拝するあいだ舅の顔が平安でした。家に帰りながら涙を流し、私の心で神様の信仰と希望と愛で満たされ感謝が溢れました。そして、月曜日の午後に舅が亡くなりました。
お葬式のため田舎に行きました。行く道はよく知る道でしたが新しく感じました。人間的な悲しみはありましたが　舅は必ず天国に行かれたことを信じ心から感謝で賛美が出ました。旦那が父は天国に行ったからキリスト教葬式にしようとすすめましたが、姑は今まで教会に行かなかったのに良心的にできないと言いました。それで　普通の葬式をしてから追慕礼拝は捧げました。恵みと真理の教会の教区と奉仕部から遠いところまで来てくださり礼拝捧げながら慰めてくださって親戚はもちろん姑が大きい感動を受けました。“ありがとう、えらいねと褒めてくれました。”今は姑も心が開いたので難しかった姑が平安に近づきました。
聖書にも嫁のルッが姑のナオミに親孝行して神様から祝福を受けたように私の一人になった姑に親孝行しながら救われるように最善を尽くすと決心しました。そして、母も急に体が痛くって私の家で泊まりながら治療を受けました。家にいるあいだ私の信仰生活と心使いで感動を受けうちの教会に礼拝に参加してイエス様を受け入れました。今は田舎の教会で他の聖徒を捧げるほど信仰が成長しました。ハレルヤ！
愛と権能の手を出し舅姑を救ってくださる神様の恵みに感謝捧げます。私の家族に愛を与えてくださる神様をもっと畏れ頼り愛します。最後まで愛と忠誠を尽くして教会で任されたことに信仰と従順の実りで神様に栄光捧げます。
私と旦那はイエス様を信じなく成長して結婚しました。平気で生活していましたが旦那が大きい交通事故があって病院に入院した時、病室の外で見える恵みと真理の教会がよく目に入りました。きれいな教会があるんだと思いました。
旦那が退院をしてある日、結婚して連絡が切れた友たちが来ました。私を伝道するためでした。驚くことが恵みと真理の教会に通う聖徒でした。私はすぐ教会に行って決信してイエス様を受け入れました。神様は私を知っており、私を探して呼んでくださたことを考えると心がわくわくしました。最初は聖書の御言葉が理解できなかったですが、難しくても礼拝に参加すると悟りと信仰が成長するように真実にイエス様を信じるようになりました。神様の御言葉が人生の知恵となり能力になりました。礼拝する幸福をあじわうようになりました。
神様が私に従順し忠誠する賜物を与えてくださいました。首区域長と女性奉仕連合会の部長で頑張って献身するようになりました。旦那の仕事を助けるため礼拝に参加できない時もあって礼拝を愛しながら祈りました。すると神様は旦那の仕事にも祝福を与えてくださり教会中心、礼拝中心の生活するようにしてくださいました。長男も聖歌隊で奉仕する恵みを受け、旦那と次男も毎日信仰が成長するように導いてくださり神様に感謝捧げます。
舅姑が早くイエス様を信じ信仰生活するように切に祈りました。私が神様に受けた恵みと愛と御言葉を続けて福音を述べ伝えた結果二人とも神様が出した救いの手を掴みました。神様に栄光を捧げます。

［信仰コラム］　歳月を大切にしよう

そこで、あなたがたの歩きかたによく注意して、賢くない者のようにではなく、賢い者のように歩き、今の時を生かして用いなさい。今は悪い時代なのである。(エフィソ)5:15、16)

人の平均寿命が医療技術の発達と十分な栄養摂取で増加しました。伝染病予防に対する知識と技術が発展して、各種抗生剤と薬が製造されて手術方法が発展されることによって人間の寿命は益々増加傾向です。しかし、老いと死を根本的に防ぐ方法はありません。過ぎ去った歳月を戻す方法はありません。だから現在っていう瞬間をよく活用しなければならないです。
歳月をよく活用しなければならない理由は、人が永生するためです。死という肉体と霊魂の分離を言っているのです。死んだ後には審判があります。各人がこの世で行ったことに沿って受けることになります。不信者は地獄に負う刑罰審判を受けます。聖徒たちは功力審判を受けます。人がこの世の中に住んでいる間神様とどんな関係の中で生きるかというのは死んだ後の運命を左右します。そこで与えられた歳月を神様との関係を深くて豊かにする機会にしなければなりません。そのために、肝に銘じて実践しなければならないことを三つに整理してみます。

第一は、私たちが持っているものを福音を伝えて神様に仕えて奉仕するために使用する必要があります。不信者をキリストの中へと導くために持ったものを適切に使用することは浪費がありません。一生はちょっと通ります。元気で力あり、能力ある間に不信者をキリストへ引き渡すことに尽力してください。そして自分が持っているものを使用して他の信者が神様をよく仕えるように手伝ってください。教会堂を建立し、教会の各種組織に加入して、奉仕することに積極的に参加してください。そうすればそれが自分に与えられた歳月を神様との関係を深くて豊かにする機会になるようにすることです。また、信じない者たちに流されて信頼に損傷を与えることがないように賢く行動し、彼らに影響を受けて信仰が変質されることがないように警戒心を持つ必要があります。

第二は、世界で苦難を出会ったときは苦難の日々を浪費しないでて賢く活用しなければならないです。苦難を経験せず、住む人は全然ありません。。。だから、苦難を忌避しようとしたのではなく、苦難に堂々と対抗しなければなりません。苦難を信頼の鍛練道具にしなければなりません。苦難を受けると神様の助けを求めてください。苦難を受けても神様を相変わらず愛している人は自分に与えられた歳月を神様との関係を深くて豊かにする機会になるようにします。安穏ときに、苦難の中で愛と忠誠の真正さが現われるようになります。

第三は、神様によって楽しんで感謝すべきです。もし文句を言うことがあったら感謝することを先に考えて楽しんで、文句を言って恨むようにしてみてください。もしそうすれば、世の中に帰る日まで神様に文句を言って恨む時間を得られなくなるはずです。神様が私たちに施した愛と恩を全部数えられる人はいないのですからです。聖徒たちは神様によって楽しんでことが無限です。神様によって感謝することも無限です。こんなことを説明する上でハパクグクの預言者の歌(ハパクグク　3:17、18)が適しています。神様によって楽しんで、感謝する人は自分に与えられた歳月を神様との関係を深くて豊かにする機会になるようにします。
　イエス・キリストを信じる者がなければ人に与えられた歳月を機会になるようにする方法がありません。死んだ後に滅亡することになる人には世界で彼が何をしても死後の世界では何の意味や価値を見つけることもできなくなります.皆さんは与えられた歳月を神様との関係を深くて豊かに発展させていく機会になるようにとご幸福をお祈りします。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

神様が与えた恩恵の命令たち

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖書には神の命令が多くしるされています。神様の命令にはすべて約束が付いています。この約束は人生が望み、必要なものを充足させるものです。だから、私たちは神様の命令が何か分かってこれを行うことを大きな楽しみとしなければなりません。今日は私たち心にとどめて考えて行わなければならない神様の命令3つを見ることで恵みを分かち合います。

第一は、″信じなさい″です。

神様は人がある対象や口約束について信じる能力をくださいました。だから、信仰を持つというのは大変な資質であり、能力です。ほとんどの人はこれといった背伸びがなく、所有している考えが多くあります。人たちは日夜と季節の規則的な変化を信じて生きています。朝が来ることを信じて夜寝ます。農夫は種を植えると、芽が出て育って結実することになることを信じて農業をします。食べる食べ物が血と肉と力になることを疑う人はありません。しかし、ある対象を信じるか信じないべきかを判断した場合、疑いという過程を経なければならない場合があります。無條件信じることや漠然とした信仰が疑いという過程を通過した後には確信に至るようになります。私たちが信じてはならないことを信じられた時、それによる弊害を決して無視することはできません。それが霊的なものになる時には致命的な結果をもたらすことになります。そこで何でも無條件信ないで、一応疑うという検証の手続きを経る必要があります。
信じなければならないことを信じる信仰を持つのは幸いで恵まれといえます。しかし、一方では我々が意志的な決断で信じなければならないものがあると言うことを忘れてはいけません。
神様は私たちの幸福のために私たちが信じなければならない対象と約束をくださいました。そしてこれを信じる者たちには不思議で驚くべき結果をくれます。予備された幸せをくれます。
信じている者にくださる最も貴重で大きな幸せは救いを得ることです。誰でもイエス・キリストを信じれば永生と救いを得るようになります。
神様は私たちにどんな資格や功労を要求しないです。罪を犯して不義と醜悪な人生に救いをたまわるのに要求されているのは、われわれの罪を贖罪した救世主イエス・キリストを信じている信仰だけです。救いを得るように信じることは不変の信仰である必要があります。患難が来て逼迫が来ても試験が来て誘惑が来ても変わらない信仰である必要があります。エペソ人への手紙 6:24変らない真実をもって、わたしたちの主イエスキリストを愛するすべての人々に、恵みがあるように。″しました。
神様はイエスキリストを信じるすべての者に救いをくださいました。それだけでなく、われわれが信じると得て経験する数多くの約束をくださいました.このような約束は信じるようにくださった言葉です。

神様の言葉を信じることと神様を信じることは一つです。神様はイエスキリストに帰する者たちに″私がこのことを行うと信ずるのか″と質問しました。″神様、私が信じます。″と答えたら″あなたの信仰のどおりになれ。″しました.すると、問題が解決され、病気がいやされろのです。神様の贖罪の恵みと約束に基づいて肯定的で希望的で楽観的な信仰を持ってください。そうすれば信仰が成就されるのです。

第二は、″求めよ″です。

私たち人生が神様に何を下さいと要求できるのは感謝して嬉しい事です。私たちが神様に何でも求められる根拠と理由は3つです。

1)神様の子供がなったからです。
イエス様がおっしゃるのを“求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物をすることを知っているとすれば、天にいますあなたがたの父はなおさら、求めてくる者に良いものを下さらないことがあろうか”。(マタイ7:7)

2)神様が口約束した言葉があるからです。
聖書には数多くの約束があります。あなたのたましいがいつも恵まれていると同じく、あなたがすべてのことに恵まれ、またすこやかであるようにと、わたしは祈っている。ことに関連された約束があります。聖霊の賜物を得る約束もくれました。知恵の言葉の賜物、知識の言葉の賜物、霊を見分けるの賜物、信仰の賜物、病気いやしの賜物、能力行うことの賜物、予言の賜物、方言の賜物、方言通訳の賜物です。(コリント１の12:8~10)仕える賜物、教える賜物、勧めをする賜物、救済する賜物、治める賜物、矜恤を施す賜物です。(ローム12:7、8)聖霊の実を結ぶこととなる約束があります。御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制であって、これらを否定する律法はないです。(ガラテヤ5:22、23)これらを下さいと神様に求めなければなりません。

3)イエスキリストの名で求めば与えるとしてくださったからです。
イエスさまがおっしゃることを″わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。（ヨハネ14:13、14)しました。ヤコブの手紙4：2あなたがたは、むさぼるが得られない。そこで人殺しをする。熱望するが手に入れることができない。そこで争い戦う。あなたがたは、求めないから得られないのだと言いました。神様は私たちが何かを探すのを待っています。いくらよく求めて、いろんなことを求めすぎることはありません。私たちが神様に求めるには制限がありません。ただむさぼるで求めることは神様が応答しません。だから求めるのは聖徒の義務であり特権で応答することは神様が自ら取った義務です。私たちがすべき義務をつくせば神様は間違いなく自分の義務を尽くしてくれます。なぜ私たちが求めるさえ与えるかについた答えは″それは神様が定めた法だ。″という言葉として返事できます。求めても応答が遅延させたり、他のものと回答されることについて私たちはすべて説明できません。けれども、私たちが知っていることは神様は遠い未来を見通しながら最善の応答をくださるという事実です。

ただ、私たちにはそれを十分に理解する能力がないだけです。神様は善良で誠実です。そして全能しています。だから、求める者にとって最良の回答をしています。

第三は、″話せなさいこと″です。

モーゼの導きでエジプトを離れたイスラエルの民が口約束の地、カナンを目の前にあることになりました。モーゼは12人をカナンの地に送って偵察できるようにしました。 偵察人たちは40日間その土地を隅々まで偵察して帰って百姓らに報告しました。12人のうち、絶対多数の10人が非常に否定的な報告をしました。カナンの城は堅固で民は強い腎臓ががっしりして自分たちは彼らに比べれば、いなごのようだと言いました。だから、その土地を占領する可能性がないとしました。その言葉を聞いて民は声を上げて叫びながら泣きました。イスラエルの子孫がすべてモーセとアロンを恨みながら彼らに叫ぶのを″私たちがエジプトの地でなくなったりこの荒野に死んだらよかったのにどうしてエホバが私たちをこの地に導きして刀に亡びるようにしようとするのか。″しました。その土地を探知した者の中からヨシュアとカレブがその服を裂きイスラエル子孫の民に叫ぶのを″私たちがすべて通って探知した土地は、極めて美しい地でエホバが私たちを喜ぶと私たちをその土地に導いてかけてその土地を我々に与えてくださるこれはまことに乳と蜜の流れる地であり、神様を拒むしてはいけないまたその土地民を恐れない彼らはご飯なので、彼らの保護者は彼らから離れ、エホバは私たちと共にいるから彼らを恐れてはいけない。″しました。あらゆる民がヨシュアとカレブを石で投げるとする同時に神様の栄光が帳幕でイスラエルの民と子孫に現れました。神様がおっしゃって″私の人生を指して誓いするあなたの話が私の耳に聞こえたとおり私があなたたちに行うんだろう。あなたは彼らに言いなさい、『主は言われる、「わたしは生きている。あなたがたが、わたしの耳に語ったように、わたしはあなたがたにするであろう。あなたがたは死体となって、この荒野に倒れるであろう。あなたがたのうち、わたしにむかってつぶやいた者、すなわち、すべて数えられた二十歳以上の者はみな倒れるであろう。エフンネの子カレブと、ヌンの子ヨシュアのほかは、わたしがかつて、あなたがたを住まわせようと、手をあげて誓った地に、はいることができないであろう。(民数記14:28~30)しました. １０人の偵察人と民らの言葉を神様が聞いたそのまま彼らに行われました。また、ヨシュアとカレブが言った言葉を神様が聞いたそのまま彼らに行われました。聖徒の皆さん、神様の品性と神様の口約束に基づいておっしゃってください。神様の耳に聞こえるようにしてください。神様が時によって助けて恵みを与えられるのです。
信じなさい、求めなさい、話せなさい。″命令の通りに行う皆さんになることを願いします。神様の品性と口約束に基づいて信仰を持つようにしてください。主があなたの信仰のどおりになれと宣言してくれます。神様の品性とその口約束した言葉に基づいて求めてください。そうすればもらえると言った言葉では応じるになることです。神様の品性とその口約束した言葉に頼って言ってください。神様がその聞きになった通り、皆さんになってくれることです。神様お話を信じて従うと、このすべての幸せがあなたに臨んで、あなたが言った言葉が、皆様の体験となってあかしになることをお願いします。